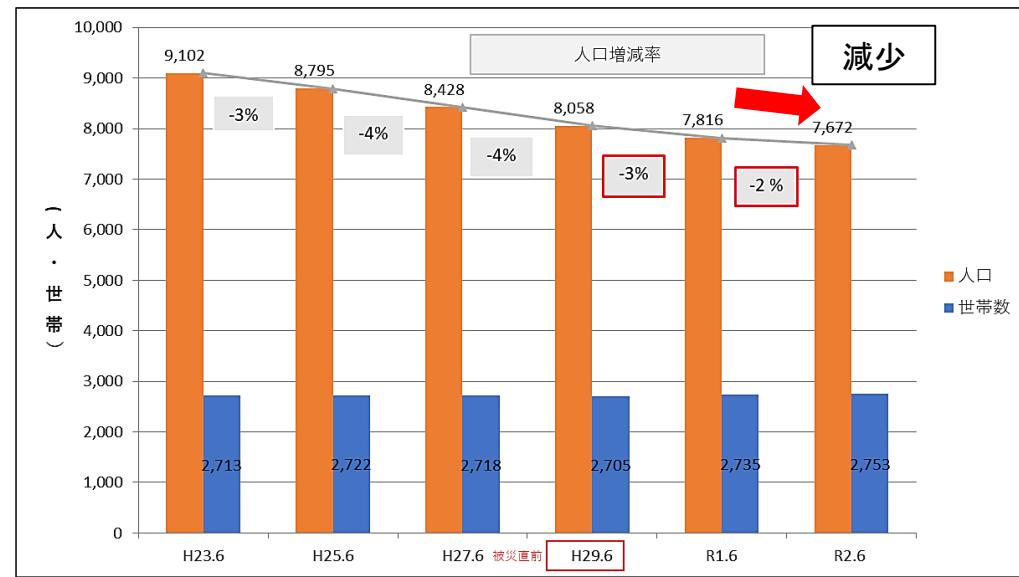


# 朝倉市復興実施計画(朝倉地区) 概要版 令和3年3月

## (1) 朝倉地区の現状



令和2年6月末時点  
人口:7,672人  
世帯数:2,753世帯

## (2) 平成29年7月九州北部豪雨被災状況

り災証明書交付状況に基づけば、損壊が著しいとされる全壊・大規模半壊については、市全体で379件。このうち朝倉地区は41件と約1割を占める。朝倉地区には、桂川や荷原川、新立川、妙見川、奈良ヶ谷川といった河川が流れており、これらの河川上流部での土砂災害、中下流部での大量の土砂や流木を伴った河川氾濫により、周辺家屋や農地、ため池等への被害を拡大させた。

朝倉市各地区における住家等建物被害の概要(り災証明書交付状況による、平成31年3月31日時点)

	松末	杷木	久喜宮	志波	朝倉	高木	三奈木	蟻城	その他	計
全壊	95	44	31	28	22	34	2	1	0	260
大規模半壊	19	22	50	4	19	5	1	0	0	119
半壊	37	41	73	21	269	20	29	157	19	664
一部損壊	35	30	32	15	165	36	29	64	21	428
計	186	137	186	68	475	95	61	222	40	1,471
平成29年6月 総世帯数	253	1210	727	592	2,705	186	1274	635	13,344	20,926
平成29年6月 総世帯数に対する 被害割合	74%	11%	26%	11%	18%	51%	5%	35%	0.3%	7.0%

## (3) 今までの意見(復興計画策定時の主な意見)

- 河川の改良復旧、浚渫、土砂・流木対策、内水対策
- 将来を見据えた農地復旧、災害で発生した土砂の有効活用
- 危険なため池の確認、対策
- 地域の事情・特性に応じた防災体制の構築、情報伝達手段の検討
- 市民との積極的な情報共有(コミュニティや区長会の活用)
- 朝倉インターチェンジの利便性を活かした地域づくり 等

## (4) 今年度の意見(令和2年度まちづくり協議会等で出された主な意見)

### すまいとコミュニティの再建について

- 買い物難民対策 等

### 安全な地域づくりについて

- 桂川災害復旧工事完了後の安全対策
- 土砂置場利用後の復旧・活用等
- 地域放送の整備
- 河川改修に伴う安全柵の整備
- 防火水槽の設置 等

### 産業・経済の復興について

- 朝倉インター周辺の活用について知りたい。新たな駐車場の整備
- 農地の復旧について知りたい。
- 復興実施計画には農業振興とあわせ、商工業振興も必要。高速ICの活用、田主丸の誘致企業の活用などにも取り組んでほしい。
- 若い世代への優遇措置や支援措置を強化してほしい。
- 食に対する意識が高まる中、農業は朝倉の強みとして食と農をつないだ検討が必要。
- 今後の検討は、コミュニティ会長や事務局と相談しながら進める。
- 将来的に朝倉庁舎は、一括して民間活用まで考えるべき
- 朝倉支所の有効活用 等

## (5) 第1回まちづくり協議会

日時: 令和2年6月11日(木) 20:30~21:30

場所: 朝倉地域生涯学習センター和室3

参加者: 朝倉地区 14名、朝倉市 5名

### 議事内容

朝倉市

- 生活再建状況について
- 復興計画の進捗について
- 朝倉市復興実施計画について



### 質疑内容

- 避難所についてのコロナ対策はどのように考えているか。
- H29災後、大勢のボランティアが復旧作業をしてくれたが、ボランティアセンターがとても混雑した。ボランティアセンターでの対応方法について社会福祉協議会と検討してほしい。
- 食料、物資の提供にあたっては、ボランティアの関わり方を検討する必要がある。また、自主避難所、指定避難所それぞれでの食料等の提供方法を検討する必要がある。そういった細かい内容を防災計画に盛り込む必要があると考えている。
- 約5%の方がまだ再建の目途が立っていない。このような方々に対する施策がない。
- 復興実施計画に農業振興は含まれるようだが、商工業の推進も必要ではないか。高速道路の利便性を活用した地域づくりの観点も欠けている。朝倉ICでのパーク&ライドで定住人口を呼び込むことや、田主丸で誘致した企業の社宅の誘致、下請け会社の受け入れなどにも取り組んでほしい。
- 若い世代への入居条件の優遇措置や支援措置が弱い気がする。住んだ方は、近隣付き合いも含め自給自足が可能な地域だと言っている。若い世代が入居しやすい施策を設けることで、もっと元気のある朝倉市につながると思う。
- 食に対する意識が若い世代も含め高くなっているようだ。農業は朝倉の強みとなっている。食や農業とつないだ若者世代の誘致を検討することで、ひとつの方向性が見えてくると思う。

## (6)復興にむけた具体事業

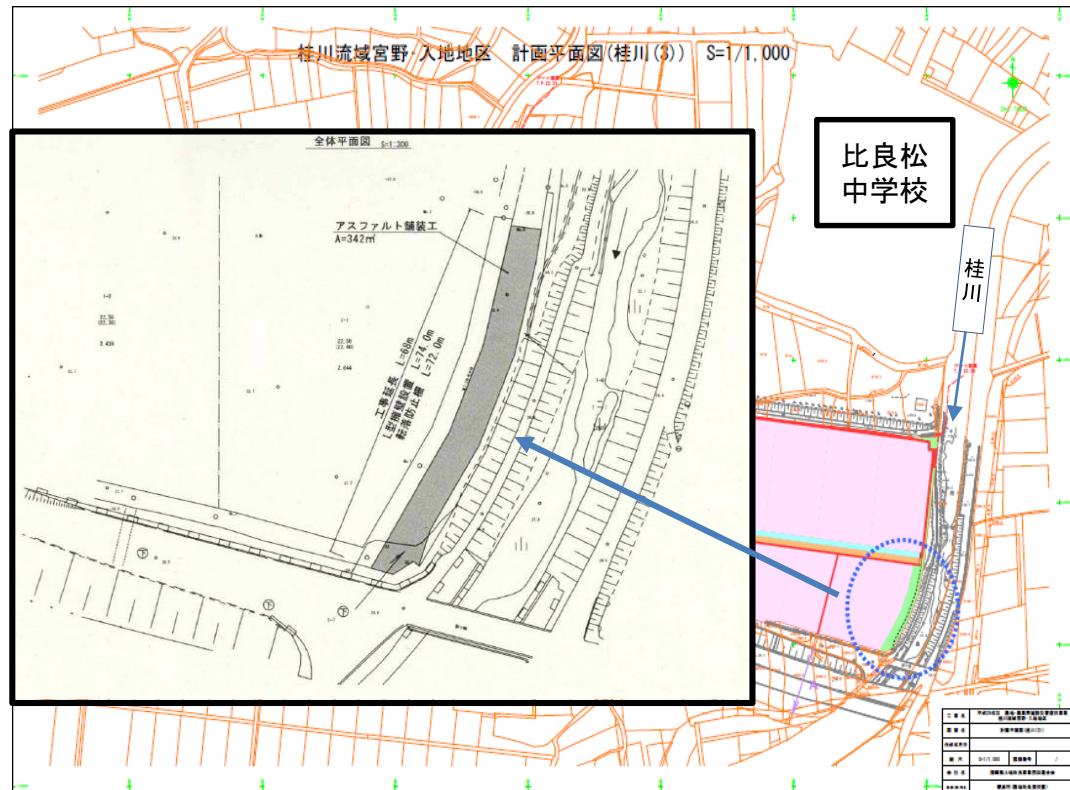
### ①朝倉インターチェンジ周辺の利便性向上

朝倉地区の産業・経済の復興に向け、交通の要所となる朝倉インターチェンジ周辺の利便性を向上させる。

- ・駐輪場の新設  
令和2年1月より併用開始。  
40台駐輪可。
- ・駐車場の移設  
令和4年4月より供用開始予定。  
15台から25台に増設。
- ・朝倉ICまでの距離を370mから200mに近接。



新設した駐輪場



朝倉インターチェンジ付近の駐車場等の位置図

### ②土砂置場完成後の農地の復興

被災農地(果樹)を土砂置場として活用し、盛土完了後の土地利用について活用方法を検討する。

宮野土砂置場は、飲料用ぶどう畑として利用することが合意されており、令和4年の作付けから実施する予定。



宮野土砂置場の位置図



宮野土砂置場の状況(令和2年11月撮影)